

令和6年度〈2024年度〉

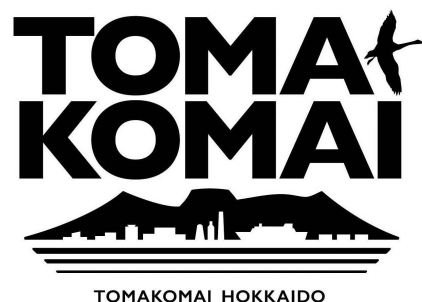
# 市政方針

苫小牧市長  
岩倉 博文

# 令和6年度 (2024年度)

## 市政方針 目次

<b>1 はじめに</b>	(3)学ぶ喜びがあふれる文化の薫るまち
(1)市政への思い…………… 3	教育行政…………… 19
(2)時代認識…………… 4	北洋大学…………… 19
(3)まちづくりの姿勢…………… 5	市民スポーツの推進…………… 19
(4)政策における共通理念…………… 6	市民文化ホール…………… 20
	国際・国内交流の推進…………… 20
<b>2 基本政策</b>	
(1)市民によるまちづくりの推進…………… 7	(4)自然と環境にやさしいまち
(2)健全な行財政運営の推進…………… 8	自然環境の保全…………… 21
	公害の防止…………… 21
	生活衛生の充実…………… 21
	ごみの減量とリサイクルの推進…………… 21
<b>3 重点施策</b>	
(1)子育て世代に手厚いまち	(5)安全・安心で快適に暮らすまち
とまこまいの実現…………… 10	居住環境の充実…………… 22
(2)ゼロカーボンシティの実現と	上下水道の整備・健全な維持管理…………… 22
産業競争力の強化…………… 11	道路の整備…………… 23
(3)都市再生コンセプトプランの具現化…………… 12	公共交通の充実…………… 23
	消防・救急体制の充実…………… 23
	防災体制の充実…………… 24
	交通安全の推進…………… 24
	防犯対策の推進…………… 24
	消費生活の安定…………… 24
<b>4 主要施策</b>	<b>5 予算編成</b> …………… 25
(1)共に支え合い健やかに暮らすまち	
保健予防対策の充実…………… 14	
医療体制の整備・充実…………… 14	
地域福祉の推進…………… 14	
高齢者福祉の推進…………… 15	
障がい者福祉の推進…………… 15	
子ども若者への育成支援…………… 15	
(2)明日を拓く力みなぎる産業のまち	<b>6 むすび</b> …………… 26
工業の振興…………… 16	
商業の振興…………… 16	
農業の振興…………… 16	
水産業の振興…………… 16	
林業の振興…………… 16	
観光の振興…………… 17	
雇用・労働環境の整備・充実…………… 17	
新千歳空港の拠点形成強化と	
周辺環境対策の推進…………… 18	
港湾整備…………… 18	



# 1 はじめに

## (1) 市政への思い

私が市長に就任し、今年には5期目の折り返しの年となります。公約の基本目標として掲げた“財政秩序を守りつつ、財政基盤のさらなる強化を図り、20年先を見据えたまちづくりの実践にチャレンジ!”し、ふるさと苦小牧のために全力を尽くす所存です。

我が国の総人口が減少する中で、本市においても平成25年（2013年）をピークに人口が減少に転じ、今もなお減少幅が拡大している状況にあります。特に生産年齢人口の減少は、本市の財政運営に大きな影響を及ぼすことが懸念されており、更なる行政改革の推進、税収の確保や新たな税外収入の獲得など、持続可能な財政運営に向けた基盤の強化がこれまで以上に重要となります。

将来の財政負担を念頭に置きながら、苦小牧駅を中心としたまちなかの再生や老朽化する公共施設の対応に道筋をつけるとともに、時代の変化を捉えた施策を展開することにより、本市がこの先も発展を続け、市民の皆様が安心して生活を送ることができるように市政の舵取りに挑んでまいります。

また、市長就任当初から、信頼される市役所づくりを目指してまいりましたが、職員の資質が問われる事態が発生しており、今一度、公務員倫理の遵守を徹底し、信頼回復に努めてまいります。

## (2) 時代認識

ロシアによるウクライナ侵攻が終わりを見せず、イスラエルとハマスの紛争が激化するなど、不安定な世界情勢が続いています。

国内においても物価高騰による市民生活への影響が続くなど、社会経済情勢の先行きが不透明となっています。

また、昨年末には国立社会保障・人口問題研究所による新しい地域別将来推計人口が発表されました。本市においても総合戦略をもとに人口減少対策に取り組んでまいりましたが、当初の想定を上回るスピードで人口減少が進むものと推計されており、更なる対応が必要となっています。

一方で、千歳市への次世代半導体企業や、本市への大規模データセンターの進出は、産業拠点都市としての成長を加速させる大きなチャンスとなります。

さらには、地球規模での温暖化対策が求められる中、ゼロカーボンシティへの挑戦を宣言している本市が脱炭素先行地域に選定されたことも追い風になるものと捉えています。

このような時代の転換期にあっては、社会の潮流をいち早く捉え、巡ってきた好機を確実につかみ取るべくチャレンジを続けることで、明るい未来が見えてくるものと確信しております。

### (3) まちづくりの姿勢

令和6年度は現行の人口ビジョン及び総合戦略が最終年を迎えます。最新の人口推計をもとに分析を行い、新たな総合戦略を策定してまいります。

産業拠点都市である本市におきましては、生産年齢人口の確保は大きな課題であり、まちの魅力の一つの柱として“子育て世代に手厚いまちとまこまい”の実現に向けた取組を加速させてまいります。

また、まちの顔ともいえる駅前再整備に向けて、引き続き関係者との協議を重ねるとともに、様々な角度からアプローチすることにより、一日も早く解決への道筋をつけてまいります。

産業分野においては、国家プロジェクトともいえる最先端企業の進出を契機に、関連する企業の誘致と新たな雇用の創出に向けた取組により、産業基盤を整備してまいります。

さらには、本市が成長戦略として掲げている、“ものづくり産業のさらなる展開”、“臨海ゾーンにおけるロジスティクスの展開”、“臨空ゾーンにおける国際リゾートの展開”を推進してまいります。

環境分野においては、CCSプロセスを有する本市が、国内の脱炭素社会構築をけん引するトップランナーとして、ゼロカーボンシティの実現に向け取り組んでまいります。

あらゆる分野において、まちの魅力を高め、新しい魅力を創造し、そしてその魅力の発信を強化することにより、人口減少を抑制し、影

響を最小限に抑え、持続可能なまちを目指してまいります。

#### (4) 政策における共通理念

近年の急激な社会経済情勢の変化により、行政課題は複雑化しており、複数の分野に及ぶ課題も顕在化しています。これら行政課題の解決に向けて強調すべき視点として、“人が集まる魅力の創造”、“ゼロカーボンシティへの挑戦”、“産業都市としての更なる飛躍”の3つを掲げております。

あらゆる施策を推進する上で、この3つの視点を強く意識して取り組み、未来につながるまちづくりを進めてまいります。

## 2 基本政策

### (1) 市民によるまちづくりの推進

地域活動の促進につきましては、防災をはじめ、地域コミュニティにおける新たなニーズへの対応が必要となっており、きめ細やかな支援により、地域活動のデジタル化や持続可能な活動の実現を図ってまいります。

市民自治の推進につきましては、まちかどミーティングやまちづくりトークなどの取組のほか、審議会等の効果的な実施を通して、市民の皆様との情報共有の拡大を図るとともに、多様な意見をお聴きし、まちづくりにいかしてまいります。

男女平等参画の推進につきましては、市民、団体、企業などと連携し、更なる意識醸成に向け各種事業を展開するとともに、性的マイノリティへの取組に関する評価指標である“PRIDE指標”の認定取得を目指すなど、誰もがいきいきとこころ豊かに暮らす社会の実現に努めてまいります。

平和の推進につきましては、非核平和事業を通じて、戦争を知らない世代に戦争の悲惨さや平和の尊さを伝えてまいります。また、非核平和都市条例を道内で唯一施行するまちとして、その象徴となるような平和の鐘の設置に向け準備を進めてまいります。

## (2) 健全な行財政運営の推進

財政運営につきましては、コロナ禍後の経済再生の動向や物価高騰などによる影響が見通せない難しい状況にありますが、財政運営持続化計画に定める4つの財政秩序<sup>※1</sup>を踏まえ、持続可能で安定した財政運営に努めることにより、様々な行政課題や市民ニーズに応えてまいります。

行政改革につきましては、この1年を行政創革プランの仕上げの年と位置付け、AIを含むICTの活用による市民サービスの向上・業務効率化をはじめ、民間活力の活用など、それぞれの取組を加速してまいります。さらには、健全な行財政運営に向け、時代の変化を的確に捉えた新たな行政改革プランの策定作業を進めてまいります。

また、自治体情報システムの標準化・共通化に向け、令和7年1月稼働を目途に取組を進め、コスト削減と事務の効率化を図り、事務手続きの簡略化など市民サービスの向上につなげてまいります。

さらに、マイナンバーカードに係る電子証明書更新等の業務を市内郵便局5局に委託し、関連手続きの利便性向上を図ってまいります。

行政組織の活性化につきましては、社会情勢の変化を的確に捉えた組織機構の見直しを行うとともに、限りある人的資源を有効に活用した機能的な組織体制の構築と適正な定員管理に努め、新たな行政課題に対して迅速かつ柔軟に対応してまいります。

※1 財政運営の目安、基金等残高の管理、財政指標の管理、地方債の影響管理のこと



また、職員の人材育成に向け、実践を重視した現在の階層別研修を継続し、自立型人材の育成を推し進めるとともに、人事評価制度や人事管理手法について、より効果的・効率的な運用方法を検討してまいります。

さらに、働き方改革と健康経営を一体的に推進し、職員一人ひとりが心身ともに健康で個性や能力を最大限に発揮できるウェルビーイング経営<sup>※2</sup>を目指してまいります。

広域連携の推進につきましては、東胆振4町と締結している定住自立圏形成協定のもと、新たな定住自立圏共生ビジョンを策定し、圏域としての生活機能の維持・発展に向けた取組を推進してまいります。

※2 身体的、精神的、社会的にも良好な状態にあることを意味する概念。職員が心身ともに健康で個性や能力を最大限に発揮し、いきいきと働くことで充実感や幸福感を得られる職場環境の実現を目指した組織運営のこと

### 3 重点施策

#### (1) 子育て世代に手厚いまちとまこまいの実現

市政の最重要課題の一つとして取組を進めている“子育て世代に手厚いまちとまこまい”の実現に向けて、4つの施策を軸に取組を加速してまいります。

1つ目は、本年8月から子どもの医療費助成制度を拡充します。国の方向性を踏まえ、優先度の高い施策と位置付け、助成対象については小学生から高校生に当たる12学年分を一気に拡充するとともに、所得制限を設けず、全ての子どもの通院及び入院に対して助成を行う子育て支援医療費助成制度を構築してまいります。

2つ目に、3歳以上の教育・保育施設における副食費の無償化の対象を第2子目までに拡充します。

3つ目は、産婦健康診査の助成回数を増やすほか、産後ケア事業の利用負担の軽減や事業内容などの拡充を図ります。

さらに、プラス1の新たな施策として、新中学生を対象に進学時の必需品である指定制服等の購入を支援する制度を創設します。

これら3つの施策の拡充と新たな制度の展開により、子育て世代の負担軽減を図ってまいります。

また、健康こども部にこども家庭支援室を新設することにより、全ての妊産婦や子育て世帯、子どもに対して母子保健と児童福祉の一体

的な相談支援を行う体制を強化してまいります。

さらに、認定こども園の施設整備を進め、待機児童が発生している3歳未満児の受皿を拡大するほか、熱中症対策として市内の教育・保育施設及び放課後児童クラブに冷房設備を設置するなど環境の整備を図ってまいります。

## (2) ゼロカーボンシティの実現と産業競争力の強化

ゼロカーボンシティの実現に向けましては、環境衛生部にゼロカーボン推進室を新設し、全庁一丸となって取組を強化してまいります。

取組の大きな柱の一つとして、申請を重ね選定に至った脱炭素先行地域の計画がスタートします。産業部門のゼロカーボン化を民生部門に波及させ、地域課題の解決に向けたモデル事業となるよう、着実に取組を進めてまいります。

また、再生可能エネルギーの適正な導入を目的とした条例やガイドラインを策定し、生活環境や自然環境との調和に向けた整備を促進してまいります。

民生部門の取組としては、Z E H<sup>※3</sup> や省エネ・再エネ機器の導入に対する支援を継続するほか、2年目となる“ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦！”の各種イベントや出前講座などを通じて、まちぐるみでゼロカーボンシティの実現に取り組む機運を醸成してまいります。

※3 Net Zero Energy House の略。省エネルギーや再生可能エネルギー等により、年間一次エネルギー消費量を実質ゼロ以下にする住宅のこと

さらには、市有施設における照明のLED化や太陽光発電の導入に率先して取り組むほか、昨年、試験的に導入した電気自動車とソーラーカーポートの寒冷地における運用を継続するなど、ゼロカーボンの取組を効果的に啓発し、市民に普及するよう努めてまいります。

企業立地の促進につきましては、苫東地域をはじめとした広大な産業用地、物流の利便性、冷涼で安定した気候などをPRし、ものづくり産業や物流関連産業の更なる集積を図るとともに、本市への進出が決定した大規模データセンターなどのデジタル関連産業や半導体関連産業の誘致に積極的に取り組んでまいります。

また、本市において既に検討が進んでいる先進的CCS事業や、再生可能エネルギーの導入促進、水素など次世代エネルギー拠点の形成、カーボンリサイクルなどの取組を地元企業と連携して進め、ゼロカーボンシティの実現を目指すとともに産業競争力の強化に取り組んでまいります。

### (3) 都市再生コンセプトプランの具現化

まちの魅力を創造する上で必須となる都市再生コンセプトプランの具現化に向けましては、目標としている交流人口の増加を目指し、苫小牧駅周辺ビジョンに示す都市機能の導入を促進するとともに、旧サンプラザビルの対応を含めた駅前の再整備に向け、JR北海道との合

意事項を踏まえた具体的な取組を進めてまいります。

また、市内に点在する魅力資源を活用し、来訪を促進する事業を展開することにより、まちなかのにぎわいを創出するほか、産業拠点都市としての特徴をいかしたMICE<sup>※4</sup>の誘致に取り組んでまいります。

スマートシティ<sup>※5</sup>の推進に向けましては、苫小牧市スマートシティ官民連携協議会と連携し、医療や交通など様々な分野においてデジタル技術等の活用を図ることにより、地域課題の解決や市民生活の質の向上、行政手続きの効率化に取り組んでまいります。

また、とまこまい版MaaS<sup>※6</sup>構想の策定を進め、利便性と質の高い将来の交通サービスの実現を目指すとともに、昨年実施した自動運転バスの実証運行に引き続き取り組んでまいります。

※4 企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字を使った造語。これらのビジネスイベントの総称のこと

※5 デジタル技術の活用により諸課題を解決し、新たな価値を創出し続ける持続可能な都市や地域のこと

※6 Mobility as a Service の略。自動運転やAIなどのテクノロジーを掛け合わせた、次世代の交通サービスのこと

## 4 主要施策

### (1) 共に支え合い健やかに暮らすまち

保健予防対策の充実につきましては、健康増進計画や国民健康保険データヘルス計画に基づき、生活習慣病の予防を中心とした健康づくりや健康を支える環境づくりに取り組むことにより、健康寿命の延伸に努めてまいります。

また、骨髄ドナー及びドナー休暇を付与した企業に対する支援を行うことにより、ドナーの負担軽減を図り、一人でも多くの患者を救えるよう、環境を整備してまいります。

医療体制の整備・充実につきましては、市立病院経営強化プランを着実に実行するとともに、周産期、救急医療や新興感染症への対応など、東胆振・日高圏域の中核病院として必要な医療機能を堅持してまいります。また、全病室に冷房設備を設置するなど、安全で快適な入院環境の整備を進めてまいります。

地域福祉の推進につきましては、重層的支援体制整備事業<sup>※7</sup>の令和7年度開始に向け、関係機関との協議を踏まえ実施体制を構築するとともに、各地域の住民とも協議を行いながら、地域が抱える複雑・複合化した課題に対応できるよう努めてまいります。

※7 市町村における既存の相談支援等の取組をいかしつつ、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を構築するため、相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援を一体的に実施する事業のこと

高齢者福祉の推進につきましては、高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に基づき、外国人を含めた介護人材の確保や育成を図るとともに、介護ロボット・ICTの活用を促進する取組を進め、介護現場の業務効率化に努めてまいります。

障がい者福祉の推進につきましては、医療的ケア児相談室を開設し、医師や看護師等から関係機関に対する専門性の高い助言を行うことにより、医療的ケア児とその家族に対する各種支援の充実に努めてまいります。また、あいサポート運動や手話の普及・啓発活動を通じて、障がい特性への理解促進に努めてまいります。

子ども・若者への育成支援に向けましては、道内において初となるヤングケアラー<sup>※8</sup>支援条例に基づき、啓発活動を通して市全体での意識を醸成するとともに、ヤングケアラーの負担軽減や孤立解消を図るなどの支援を推進してまいります。

また、苫小牧市子ども・若者支援地域協議会を構成する支援機関・団体の拡大を図るほか、児童センターにおいて居場所機能を充実させることにより、中高生にとって交流活動の拠点となるよう努めてまいります。

さらに、こども研修やキッズタウン、未来創造こども会議を時代のニーズに合わせてリニューアルすることにより、青少年の健全育成に努めてまいります。

※8 本来、大人が担うような家事や家族のケアを日常的に行う18歳未満の子どものこと

## (2) 明日を拓く力みなぎる産業のまち

工業の振興につきましては、テクノセンターにおける各種測定・分析装置等の利活用を通じ、地元企業の技術力向上や生産技術の高度化を支援するとともに、研修会などの実施により、地域企業の技術系人材の育成に努めてまいります。また、産学官金の連携を深めながら、企業の新技術の導入や新規事業の創出を支援してまいります。

商業の振興につきましては、老朽化が進む“ぷらっとみなと市場”の建替えに向けた再整備計画を策定するとともに、各種支援策の実施や商店街との連携により、にぎわいの創出に努めてまいります。

また、とまチョップポイントのアプリユーザーや加盟店の拡大に取り組むほか、中小企業振興計画に基づき、創業や事業承継などの支援策を継続し、市内中小・小規模事業者の振興に努めてまいります。

農業の振興につきましては、新規就農者の負担軽減の支援を進めるとともに、生産基盤整備による収益力強化及び経営安定化に対する支援を継続してまいります。

水産業の振興につきましては、23年連続漁獲量日本一のホッキ貝をはじめとした苫小牧産水産物の安全・安心、かつ安定的な供給に対する支援を行うとともに、その魅力発信に努めてまいります。

林業の振興につきましては、森林経営管理法に基づき、経営管理が行われていない民間の森林に対して、林業経営の効率化と森林の管理



の適正化を促進するとともに、二酸化炭素の吸収をはじめとした森林が持つ多面的機能を発揮させることにより、ゼロカーボンの推進にも貢献してまいります。

観光の振興につきましては、ダブルポートをいかし、道内外からの誘客や教育旅行の誘致を図るとともに、本市の魅力を改めて発掘し、広く発信してまいります。

また、アニメツーリズム事業においては、本市にゆかりのある作品とのコラボレーションを継続し、まちの知名度向上と交流人口の増加を図ってまいります。

雇用・労働環境の整備・充実につきましては、合同就職説明会などを通じて地元企業の魅力を発信するとともに、労働市場の動向を踏まえた採用活動を支援し、企業の人材確保に努めてまいります。

また、多様化する企業の課題に応じ、専門家によるコンサルティングを行うほか、外国人を雇用する企業に対し、従業員の日本語教育への支援を新たに実施するなど、誰もが働きやすい職場環境づくりと人材定着に向けて支援してまいります。

さらに、求職者に対しては、スキルや知識の習得のほか、伴走型の就職支援を行い、人手不足が深刻な地元企業とのマッチングを図ってまいります。

公共工事の発注においては、週休2日制工事が更に効果的な制度と

なるよう改善を重ねるほか、早期発注による施工時期の平準化の取組を継続し、受注者の働き方改革や職場環境の改善、人手不足への対応に努めてまいります。

新千歳空港の拠点形成強化と周辺環境対策の推進につきましては、国内外からの誘客促進や二次交通の利便性向上など、新千歳空港の利用促進につながる取組を行い、航空需要の更なる拡大に努めるとともに、空港の24時間運用拡大に伴う住宅防音対策を着実に進めてまいります。

また、米軍再編の訓練移転においては、市民の安全・安心に万全を期すとともに、交付金の活用により植苗地区のテレビ共同受信施設の改修を進めるなど、航路下地域の環境整備や市民生活の利便性向上を図ってまいります。

さらに、臨空ゾーンにおける統合型リゾート（IR）を含めた国際リゾート構想の実現に向けては、北海道が検討を進めている“北海道らしいIR”のコンセプト策定に協力をしながら、引き続き取り組んでまいります。

港湾整備につきましては、東港区周文ふ頭の複合一貫輸送ターミナルの整備を進め、道産農水産品などの貨物需要やトラックドライバーへの時間外労働の上限規制により発生する諸問題に対応するとともに、大規模自然災害などに備えた耐震・防災機能を強化し、緊急物資輸送

に対処してまいります。

また、令和5年度から供用開始した西港区中央北ふ頭3号岸壁の背後ヤードの整備を進め、荷役の効率化を図ることにより、新たな貨物需要などにも対応してまいります。

さらに、港湾のゼロカーボン化に向けては、苫小牧港港湾脱炭素化推進計画の取組を進め、企業誘致力や港湾競争力を強化し、ゼロカーボンの推進に資する産業の創出、誘致につなげるとともに、これまで構築した海陸輸送ネットワークをいかし、水素や燃料アンモニア等の次世代エネルギーの供給拠点の形成を目指してまいります。

### (3) 学ぶ喜びがあふれる文化の薫るまち

教育行政につきましては、教育大綱の基本理念に掲げる“未来の社会をつくるひとづくり”を目指し、教育行政執行方針のもと各種施策に取り組んでまいります。

市内唯一の4年制大学である北洋大学においては、本市職員の配置による大学側との連携・協力を継続するなど、学生確保に向けて支援してまいります。また、インターンシップへの支援を継続し、学生の市内企業の認知度向上と就職を促進してまいります。

市民スポーツの推進につきましては、健康ウォーキングやスポーツフェスティバルの開催等を通じて、スポーツに参加するきっかけを創

出し、スポーツ人口の拡大を図るとともに、市民の健康増進に努めてまいります。

また、ヤクルト緑ヶ丘陸上競技場を日本陸上競技連盟の公認継続に向けて改修するとともに、老朽化したスポーツ施設の整備を計画的に進め、安全で充実した施設環境を整えてまいります。

なお、総合体育館の建替えに関しましては、建設費が高騰している現状を踏まえ、建設場所や建設規模の方針については、最優先課題である駅前再整備の方向性を見極めた上で、しかるべき時期に判断してまいります。

苫小牧市民文化ホールにつきましては、建設工事を進めるとともに、オープンに向けた機運の醸成を図るプレイベントを企画・実施し、多くの市民に親しまれるサードプレイス<sup>※9</sup>の実現を目指してまいります。

国際交流の推進につきましては、多文化共生指針の策定を進め、国籍や文化的背景に関わらず誰もが住みやすいまちづくりを目指してまいります。また、子ども達の海外派遣や市内在住外国人との交流事業を通じて、国際的視野を持つ人材の育成に努めてまいります。

国内交流の推進につきましては、八王子市・日光市・苫小牧市の三姉妹都市による盟約50年を記念した事業を実施するほか、はちとまネットワーク事業を通じて八戸市との連携を深め、交流都市相互の発展につなげてまいります。

※9 自宅でも職場や学校でもない、人々が心のよりどころとして集う第三の居場所のこと

#### (4) 自然と環境にやさしいまち

自然環境の保全につきましては、本市の地域特性を踏まえた生物多様性地域戦略を策定するほか、自然環境保全地区である樽前ガローの保全を優先した活用の在り方を取りまとめてまいります。また、市街地への出没が頻発し、市民生活への影響も大きいエゾシカの対策を強化するとともに、近年、目撃情報が増加しているヒグマへの備えを進めてまいります。

公害の防止につきましては、大気汚染や航空機騒音の常時監視を継続するとともに、公害防止協定や関係法令に基づく事業所への立入調査を実施し、適切な指導に努めてまいります。

生活衛生の充実につきましては、高丘霊葬場の火葬炉を増設するとともに、長寿命化計画を策定し、安定運用と利用者の利便性の向上に努めることにより、超高齢社会に対応してまいります。

また、ペットの遺棄や不適正飼育に加え、飼い主の様々な事情により生じる問題について、北海道や関係団体などと協議・連携を図り対応してまいります。

ごみの減量とリサイクルの推進につきましては、新たな一般廃棄物処理基本計画を策定し、ゼロごみのまちの実現に向けた長期的な目標等を示すほか、(仮称)新リサイクルプラザ苫小牧条例を制定し、更なる環境教育の推進を図ってまいります。

また、ふくしのまちづくりの一環として、戸建住宅にお住いの85歳以上の世帯を対象とする“戸別収集85”を開始します。

さらに、学校から排出される給食残さをバイオガス発電に活用することにより、温室効果ガスの排出量削減に努めてまいります。

#### (5) 安全・安心で快適に暮らすまち

居住環境の充実につきましては、市営住宅整備計画に基づき、建替事業を進めている末広町市営住宅の解体工事に着手するなど、管理戸数の適正化を進めるとともに、既存住宅の改修による長寿命化に引き続き取り組んでまいります。

また、新たな空家等対策計画に基づき、空き家に対する各施策を推進するとともに、改正された空家等対策の推進に関する特別措置法に適切に対応してまいります。

さらに、ウトナイ地区においては、誰もが安全・安心で快適に利用できる“勇の原公園”の整備に着手してまいります。

上下水道の整備・健全な維持管理につきましては、水道事業・下水道事業経営戦略に基づき、健全経営に努めるとともに、自然災害への備えとして水道管の耐震化を進めるほか、排水ポンプの増強による浸水対策を行ってまいります。また、浄水場におけるマイクロ水力発電の導入に向けた設計に着手し、更なるゼロカーボン化を目指してまいります。

道路の整備につきましては、未舗装区間の舗装整備をはじめ、老朽化が進む道路の改修や橋りょうの長寿命化対策を計画的に進めるとともに、道路施設の保全に努めることにより、安全・安心な道路交通網を確保してまいります。

また、除雪車両運行管理システムの市民公開による除雪作業の見える化を継続し、市民サービスの向上と快適な冬季道路交通の確保に取り組んでまいります。

公共交通の充実につきましては、地域公共交通計画に基づき、市内バス路線再編の状況を見極めながら、待合環境整備やデジタルサイネージ設置などにより利用促進を図るとともに、タクシー不足への対策としてナイトバスの実証運行に取り組むなど、持続可能な公共交通ネットワークの形成に努めてまいります。

さらに、JR室蘭線・日高線の維持存続に向けては、JR北海道とともにラッピング車両を活用した利用促進に取り組むなど、沿線自治体一丸となった協力・支援を行ってまいります。

消防・救急体制の充実につきましては、老朽化した車両や資器材を更新することにより、市民の生命・財産を守るとともに、東胆振1市4町の消防指令業務共同運用に向けた取組を進め、強固な消防体制を構築してまいります。

また、乳幼児を持つ親を対象にしたパパママ救急隊員養成講習と題

した救命講習を定期開催して、子育ての不安解消や救急車の適正利用につなげてまいります。

防災体制の充実につきましては、最新の国の知見及び災害予測を受けた地域防災計画の見直しに着手するとともに、様々な計画・マニュアルに基づく取組や、地域に根ざした防災教育を推進し、本市を取り巻く災害に即応できるよう、体制の深化を図ってまいります。

交通安全の推進につきましては、交通安全計画に基づき、各年齢層に応じた段階的かつ体系的な安全教育を強化するとともに、自転車用ヘルメット購入補助制度の創設により、自転車事故による被害の軽減を図ってまいります。

防犯対策の推進につきましては、これまでの取組や実態の検証を進め、新たな総合防犯計画を策定することにより、安心して暮らせる市民生活の確立を目指してまいります。

消費生活の安定につきましては、消費者教育推進計画に基づき、消費者センターを拠点に関係団体との連携強化を図ることにより、ライフステージや各年代の特性に応じた消費者教育を推進してまいります。



## 5 予算編成

令和6年度は、物価高騰などの社会経済情勢や国の政策動向を踏まえ、市民生活に配慮しつつ、総合計画と“子ども・子育て応援”、“人口減少社会への対応”に基づく施策に予算を重点化する方針により、主要事業の一般財源は、46億5千万円、早期発注事業として、3億3千万円を計上しました。

以上の結果、当初予算は、

一般会計 88,310,000 千円

特別会計 33,752,852 千円

企業会計 22,846,550 千円

合計 144,909,402 千円となりました。

各会計の予算案は、議案第10号から第17号であり、関連する議案は、第23号、第25号から第30号及び第33号であります。

※各会計予算と関連議案の詳細につきましては、予算委員会において説明します。

## 6 むすび

私たちの暮らす郷土苫小牧は、理想の都市である“人間環境都市”の実現を目指してまちづくりを進め、先人のたゆみない努力と英知の結集によって、産業拠点都市として北海道経済をけん引する大きな役割を担うまで、発展を続けてまいりました。

時代の転換期を迎え、人口減少が加速する中、正しい時代認識のもと、多様化する市民ニーズや複雑化する行政課題に対して、機を逸することなくチャレンジする意識を持つことが重要です。

市民の皆様とともに、まちの魅力を創造し、発信することにより、本市の持つポテンシャルを十二分に発揮させ、市民が誇れる持続可能なまち苫小牧を実現する強い決意を持って、令和6年度の市政運営を進めてまいります。